



●インフルエンザが先週から流行期に入っています●

感染症発生動向調査で、熊本市の第50週（12月10日～12月16日）の定点医療機関あたりの患者報告数は、2.04人（定点数25ヶ所、患者報告数51人）となり国が流行の目安としている1.0人を超えています。感染予防に努めましょう。

◆予防法は？

- 1) 流行前にワクチンを接種しましょう。
- 2) 飛沫感染対策としての咳エチケットを心掛けましょう。
  - ・患者の咳やくしゃみの際に口から発生される小さな水滴（飛沫）を吸い込むことによる飛沫感染が主です。したがって、飛沫を浴びないようにすればインフルエンザに感染する機会は大きく減少します。普段から皆が咳エチケットを心がけ、咳やくしゃみを他の人に向けて発しないように気をつけましょう。
  - ・咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること。とっさの咳やくしゃみの際にマスクがない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を覆い、顔を他の人に向けないようにしましょう。
  - ・ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。特に感染者がマスク等飛沫感染対策を行う事が重要です。
  - ・学校保健安全法における取り扱いでは、原則として、発症したあと5日経過し、かつ解熱したあと2日（幼児は3日）を経過するまで出席停止とされています。（ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められたときは、この限りではありません。）
- 3) 適度な湿度の保持や外出後の手洗い等しましょう。
  - ・空気が乾燥すると、気道粘膜の防御機能が低下し、インフルエンザにかかりやすくなります。特に乾燥しやすい室内では、加湿器などを使って適切な湿度（50～60%）を保つことも効果的です。加湿器の掃除もこまめに行いましょう。
  - ・流水・石鹸による手洗いはインフルエンザに限らず接触や飛沫感染など防ぐ感染症対策の基本です。インフルエンザウイルスにはアルコール製剤による手指衛生も効果があります。
- 4) 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を心掛けましょう。人混みや繁華街への外出を控えましょう。



期 間		平成30年 49週		平成30年 50週	
		12/3～12/9		12/10～12/16（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		35	1.40	51	2.04
RSウイルス感染症		3	0.19	2	0.13
咽頭結膜熱（プール熱）		3	0.19	5	0.31
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51	3.19	44	2.75
感染性胃腸炎		120	7.50	126	7.88
水痘（みずぼうそう）		11	0.69	7	0.44
手足口病		12	0.75	14	0.88
伝染性紅斑（りんご病）		0	0.00	5	0.31
突発性発しん		9	0.56	5	0.31
ヘルパンギーナ		3	0.19	1	0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		1	0.06	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		19	3.80	11	2.20
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00